

162 帯びた玉珮は争って輝き、身にまとわすことになった。

163 高官への榮進とともに責任は重くなり、ずしりと身に感じた。

164 (その一方で) 身辺の危険は増大し、万仞の淵を臨むようなものだった。

165 人々が仰ぎ見るような地位、(万人が仰望の) 右大臣右大將を兼務したのを、

166 (それを見て) 皆ことごとく言った。「あなたは功績も才能も欠く人物だから職を辞退したら」と。

167 衣服を仕立てることを試みては、あでやかな絹織物を損なうことを、ひたすら恐れるように(天皇を補佐するに当たっては、天皇の權威を損なうことのないように注意に注意した)。

168 鉛刀(なまくら刀)を手にしたところで、役には立たないだろうから、めったなことをしないように用心に用心をして(国政に参与してきた)。

語釈

161 ○光榮…さかえ。ほまれ。光譽。名譽。

『漢書』「貢禹伝」に「何以孝弟為、財多而光榮」とあり、また『後漢書』「孔僖伝」には「今日之會、寧於卿宗有光榮乎」とある。

『漢辞海』では、「かがやかしいほまれ」「榮譽」と説明する。

『漢語大詞典』では「①榮譽・榮耀」と説明し、桓寬の『塩鉄論』「散不足」の「雖無哀戚之心、而厚葬重幣者、則称以為孝。顯名立於世、光榮著於俗」の例を引く。